
気持ちはナース

神山仁一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

気持ちはナース

【Nコード】

N0988B

【作者名】

神山仁一

【あらすじ】

新人ナースあずさが、小さな町病院で繰り広げる、笑いと感動の実話ストーリー

No.1:プロローグ

「よぉーし、今日もがんばろつとー!!」

それが彼女の口癖だった。

イノグチアスサ

彼女の名前は井ノ口梓。今年で二十歳を迎える、バリバリの社会人笑顔と元気が取り柄で、活発な性格だ。

「おはようございます。師長さん、今日も忙しいですね。」

小さい頃からの夢であつた、憧れのナースに晴れてなれたのだった。
(准看護師だけど・・・)

小さな町の病院に勤めた彼女は、それはもう町の人気者。病院に元氣無く来た患者も、帰る頃には笑顔で・・・と、言うよりは大笑いをして帰ると言う始末でした。それは何故かって??だって彼女は、とてもナースには向かないもう一つの性格を、持っていたからです。

「梓さーん、鉗子とつてちょうだい。」

「はい。今いきまー・・・」

ガッシャーン!!!!ガチャガチャガチャッ!!!!
カラカラカラカラカララーン・・・

とにかく、ドジでおつちよこちよい。揚げ句のはてには、プライバシー保護もあつたもんじゃない位の、お喋りさんでした。

「井ノ口さん!!」

「はいいー・・・」

「また、やったわね!!」

「すつ、すみません」。

必ず、一回は派手に転ばないと気が済まないのか、決まった時間にそれもなにか頼まれ事があつた後に、すぐ躓き転ぶ。それが日課となり、町の人も半分はそれを見たいが為に病院に来るのだった。

「いやあ、今日も派手にやったなあ!!」

「毎日毎日、ようやるわ」。

「いやあ、今日のが一番かもしれねーなあ？ 医院長??」

「まあまあ、彼女だって真剣にやってるんだから、からかつちゃダメだよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0988b/>

気持ちはナース

2010年11月5日06時50分発行